

2015事業年度 2015.4.1 → 2016.3.31

Financial Report 2015

Shiga University of Medical Science

財務報告書

滋賀医科大学は、地域に支えられ、地域に貢献し、
世界に羽ばたく大学として、人々の健康、医療、福祉の
向上と発展に貢献するために、次の3Cを推進する。

Creation

優れた医療人の育成と新しい医学・看護学・医療の創造

Challenge

優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦

Contribution

医学・看護学・医療を通じた社会貢献



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

目次 Contents

ご挨拶

02 滋賀医科大学 学長 塩田 浩平

財務諸表

- 03 貸借対照表について
- 04 損益計算書について 費用の部
- 05 損益計算書について 収益の部

TOPICS

- 06 教育実績
- 08 研究実績
- 09 診療実績
- 11 主な財務指標

本学と地域経済の関わり

- 12 滋賀医科大学の立地による地域への経済効果
財政規模から見た地元市町村との比較

新たな取り組み

- 13 定期借地権活用による民間資本の導入

滋賀医科大学の目標

- 14 第2期中期目標(前文)
～第3期中期目標に向けて(前文)





学長 塩田 浩平

滋賀医科大学は、1974年の創立以来、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成し、世界に情報を発信する研究者を養成すること、さらに質の高い医療を実践することによって、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献することを理念としております。

平成28年6月、本学は第2期中期目標期間の最終年度となる、平成27事業年度の財務諸表等を文部科学大臣に提出しました。

平成16年の国立大学法人化以降、大学の基盤となる運営費交付金の継続的な削減、18歳人口の減少、学生獲得をめぐる大学間競争、医学教育カリキュラムの国際基準対応など、対応を迫られる課題も変化し、多様化しています。

大学法人が持続的に発展していくためには、財務の健全性を保持すると同時に、その透明性を高め、ステークホルダーの皆様への説明責任を果たしていくことが重要です。

本学では、財務諸表を公開するとともに、財務状況をご理解いただけるよう、財務レポートを作成いたしました。

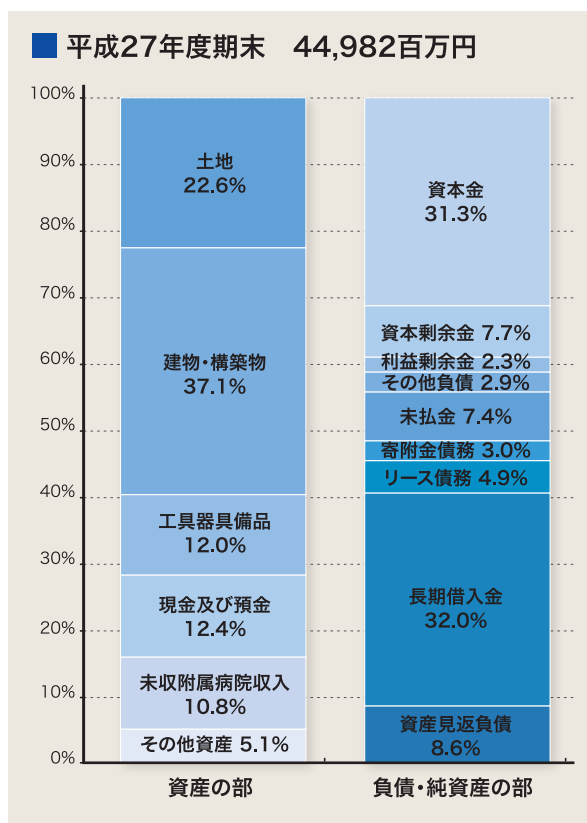
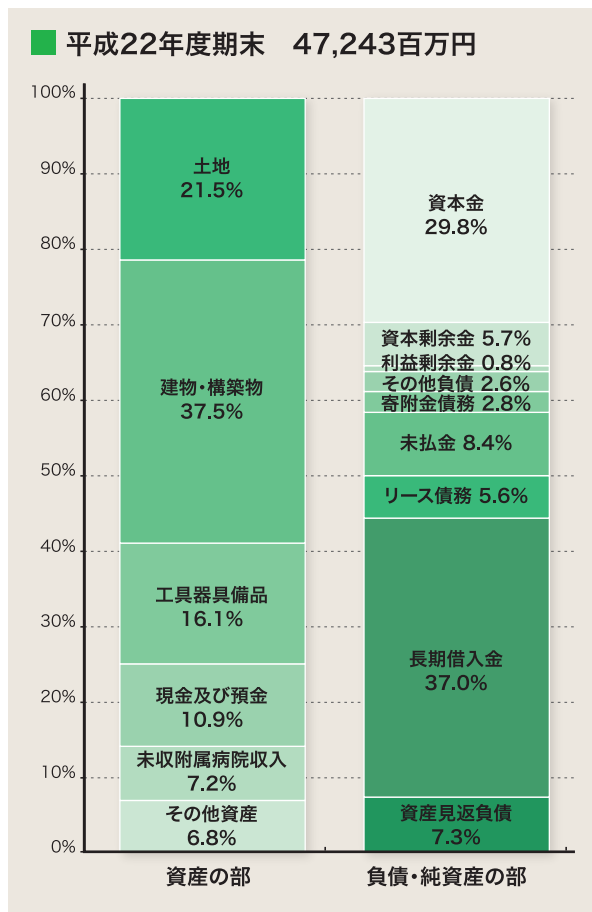
本レポートが本学ならびに附属病院の財務状況をご理解いただく一助となれば幸いです。

※ おことわり
特に注意書きのない場合、単位は百万円としております。
また、単位未満は切り捨てとしていますので、合計が合わないところがあります。

貸借対照表について

貸借対照表とは、決算日(3月31日)における、国立大学法人の資産・負債・純資産がどのような状態(財政状態)かを表示し、明らかにするものです。

第2期中期目標期間(平成22~27年度)の総括として、平成22年度と平成27年度の比較をしました。



- 平成22年度と比較すると本学が所有する総資産は、**2,261百万円(4.8%)**減少しています。これは、病院再開発事業(平成17~23年度)にて新規導入した機器が、経年により減価償却が進んだことによります。
- これは同時に、古い機器を使用し続けていることも表しています。
- 一方で、負債総額も減少しております。これは、長期借入金の返済が順調に進んでいることによります。

平成22年度 資産の部		平成22年度 負債・純資産の部	
土地	10,162	資本金	14,099
建物・構築物	17,692	資本剰余金	2,679
工具器具備品	7,611	利益剰余金	357
現金及び預金	5,132	其他負債	1,207
未収附属病院収入	3,383	寄附金債務	1,329
其他資産	3,262	未払金	3,963
		リース債務	2,654
		長期借入金	17,509
		資産見返負債	3,444
資産合計	47,243	負債・純資産合計	47,243

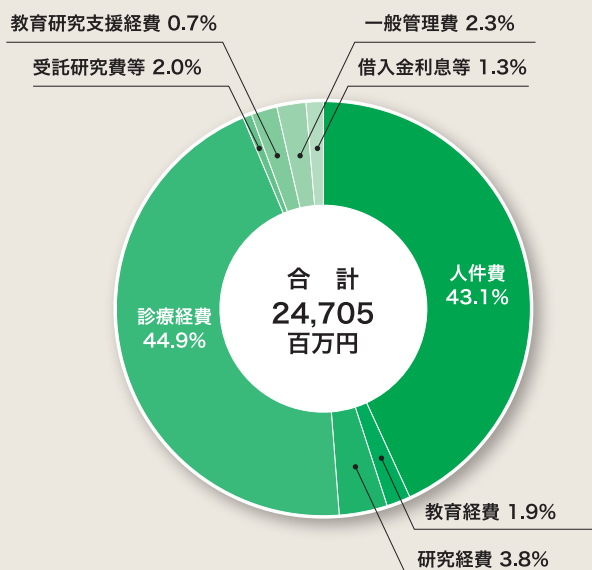
(百万円)

平成27年度 資産の部		平成27年度 負債・純資産の部	
土地	10,162	資本金	14,099
建物・構築物	16,690	資本剰余金	3,443
工具器具備品	5,413	利益剰余金	1,051
現金及び預金	5,564	其他負債	1,307
未収附属病院収入	4,845	未払金	3,331
其他資産	2,301	寄附金債務	1,329
		リース債務	2,173
		長期借入金	14,373
		資産見返負債	3,868
資産合計	44,982	負債・純資産合計	44,982

(百万円)

損益計算書について 費用の部

平成22年度

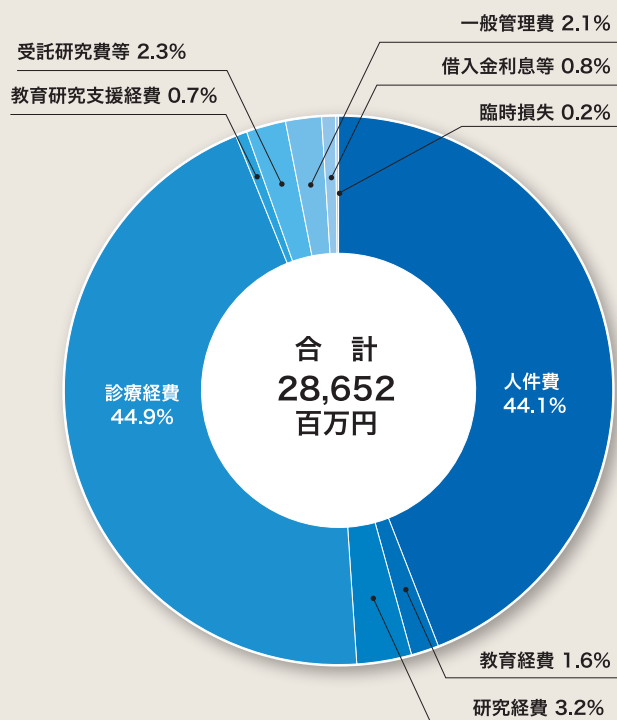


平成22年度 経常費用	
人件費	10,655
教育経費	461
研究経費	928
診療経費	11,084
教育研究支援経費	169
受託研究費等	503
一般管理費	559
借入金利息等	332
臨時損失	10
合計	24,705

(百万円)

平成22年度の費用は24,705百万円。
 平成27年度の費用は28,652百万円で、**3,947百万円(16.0%)**の増となっています。
 主な要因としては、診療経費および人件費が増加したことによります。

平成27年度



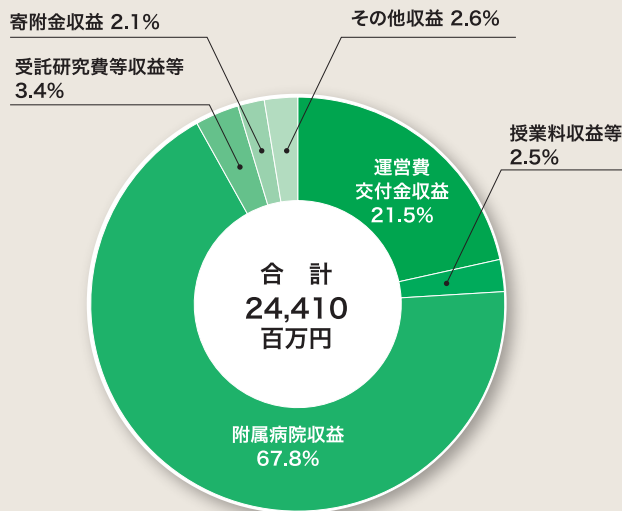
平成27年度 経常費用		対22年度 増減
人件費	12,626	+18%
教育経費	469	+2%
研究経費	925	—
診療経費	12,879	+16%
教育研究支援経費	191	+13%
受託研究費等	668	+33%
一般管理費	606	+8%
借入金利息等	233	△30%
臨時損失	50	
合計	28,652	

(百万円)

診療経費は患者数、手術件数の増加により**1,795百万円(16.2%)**増となりました。
 人件費は主に医療スタッフを増員したことにより、**1,971百万円(18.5%)**の増となっております。職員数は、1,340人(平成22年度)から1,600人(平成27年度)に増加しています。(非常勤職員を含む)

損益計算書について 収益の部

■ 平成22年度



平成22年度 経常収益

運営費交付金収益	5,255
授業料収益等	610
附属病院収益	16,560
受託研究費等収益等	837
寄附金収益	506
その他収益	633
臨時利益	6
合計	24,410

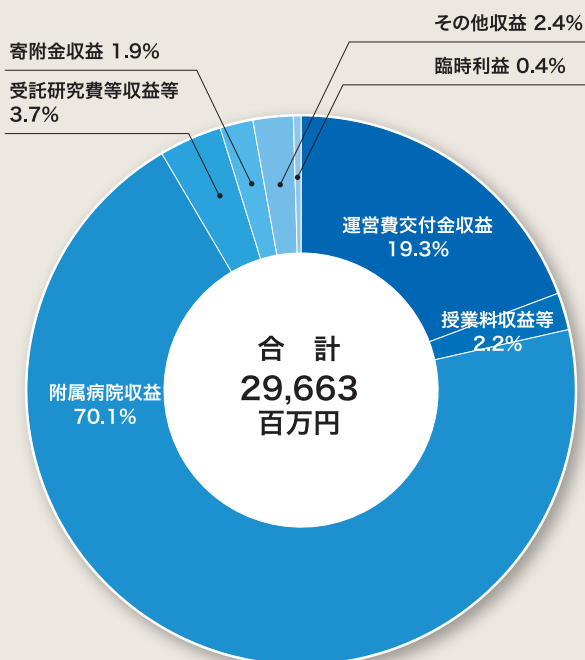
(百万円)

平成22年度の収益は24,410百万円。

平成27年度の収益は29,663百万円で、**5,253百万円(21.5%)**の増となっています。

主な要因としては、患者数および診療単価の増により、附属病院収益が4,224百万円増加したことが挙げられます。

■ 平成27年度



平成27年度 経常収益

対22年度 増減

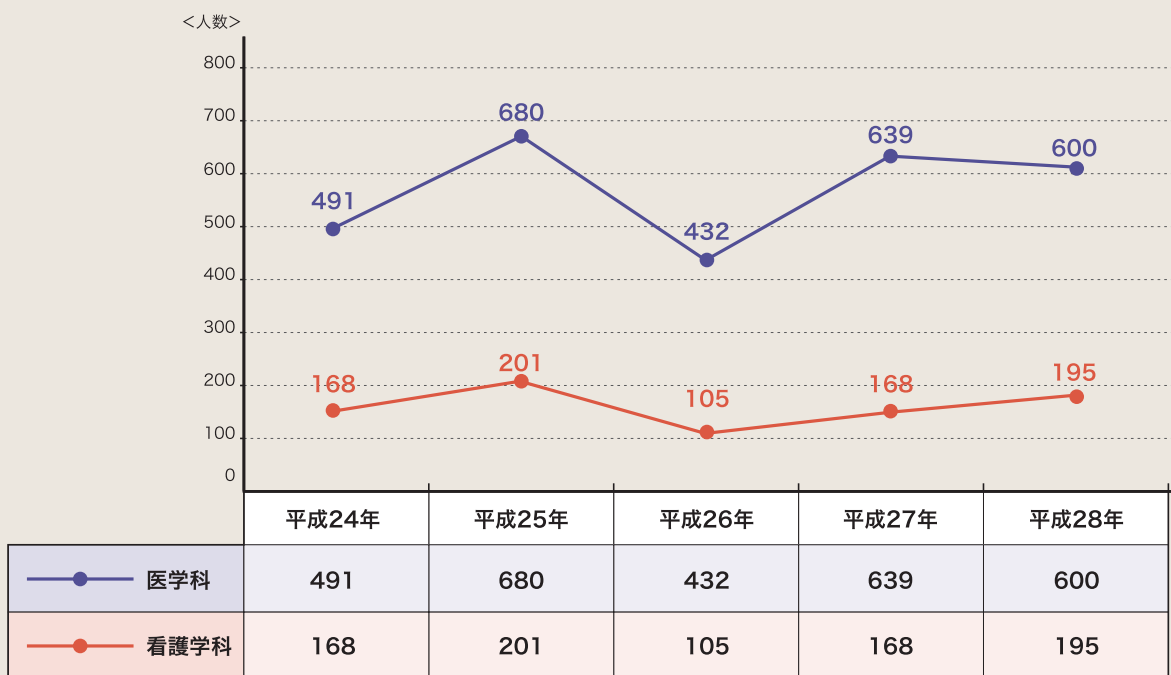
運営費交付金収益	5,716	+9%
授業料収益等	650	+7%
附属病院収益	20,784	+26%
受託研究費等収益等	1,099	+31%
寄附金収益	578	+14%
その他収益	702	+11%
臨時利益	133	
合計	29,663	

(百万円)

運営費交付金には、教職員の退職手当が含まれており、年度の退職者により大きな影響があります。

大学運営の基盤経費である一般運営費交付金は「大学改革推進係数」により、**毎年1.3~1.4%**削減されており、平成22年度から27年度までの削減額の累計は**280百万円**になります。

■ 医学部志願者数の経年変化



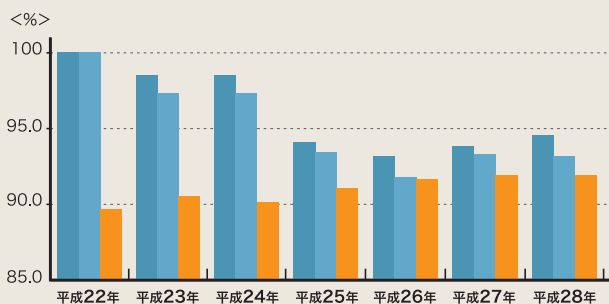
※上記志願者数は、医学科・看護学科の一般入試および推薦入試のみで、編入学試験の志願者は含めていない。

新規卒業者の目標合格率は、95%以上。

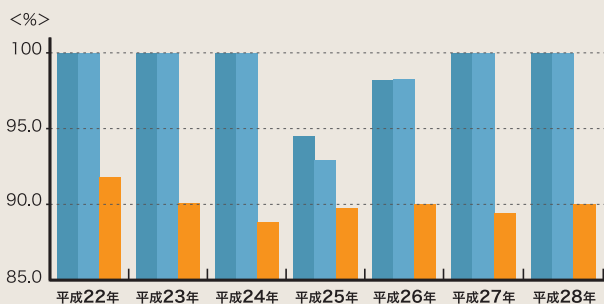
■ 国家試験合格率

■ 新卒 ■ 既卒含む ■ 全国平均

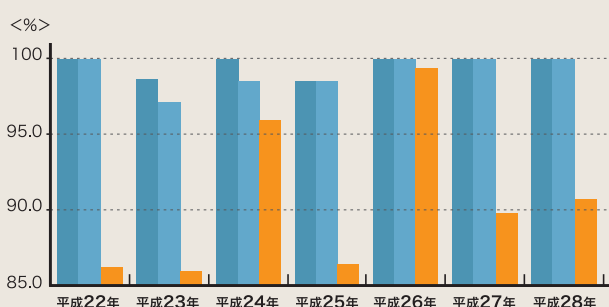
■ 医師



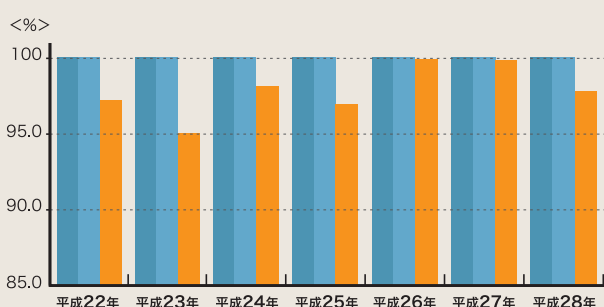
■ 看護師



■ 保健師



■ 助産師



TOPICS 教育実績

■学生一人あたりの教育経費(年間)

平成22年度 5,165(千円/人) **5,279,435(千円) ÷ 1,022(人)**

平成27年度 5,274(千円/人) **5,775,433(千円) ÷ 1,095(人)**

※ 計算式 = 病院以外の経費 ÷ 学生数
 学生数は、医学部(医学科、看護学科)、医学系研究科の各年度の定員としている。

ご参考までに

学生一人あたりの大学経費(年間)

平成27年度実績 **28,652,822(千円) ÷ 1,095(人) = 26,166(千円/人)**

※ 計算式 = (経常費用+臨時損失) ÷ 学生数

■教員一人あたりの学部学生数

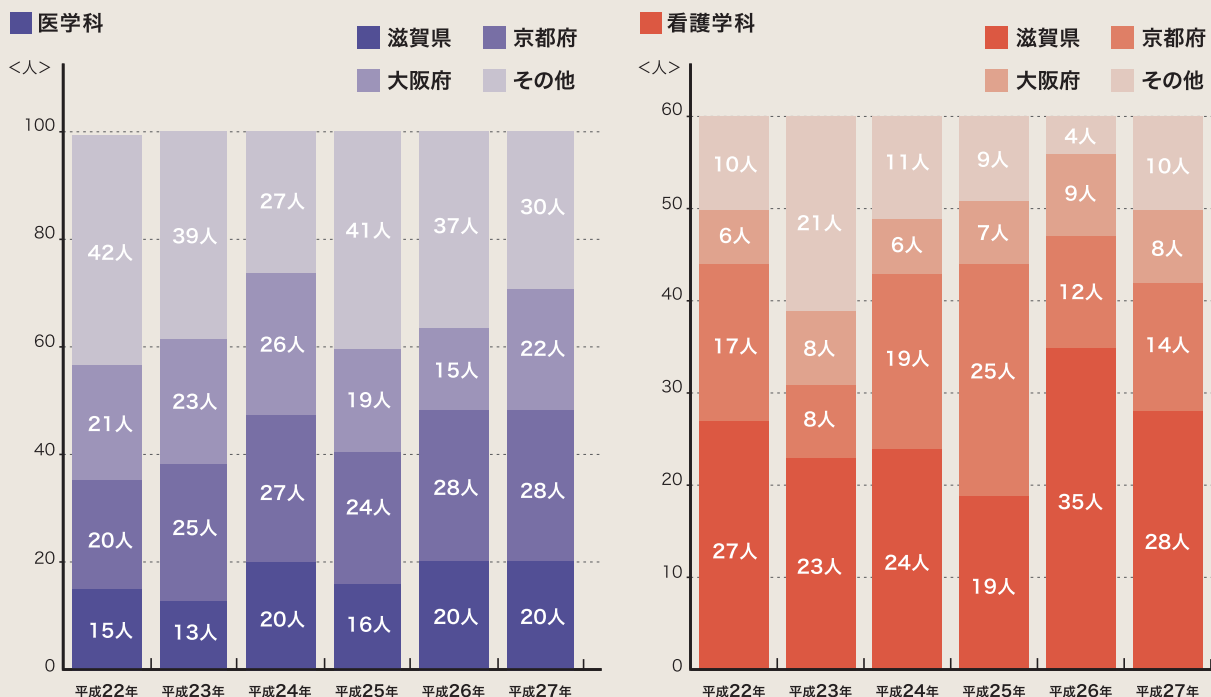
平成22年度 **870(人・医学部定員) ÷ 314(人・教員数) = 2.77人**

平成27年度 **943(人・医学部定員) ÷ 308(人・教員数) = 3.06人**

※上記「教員数」には、特任教員、非常勤講師は含まれておりません。

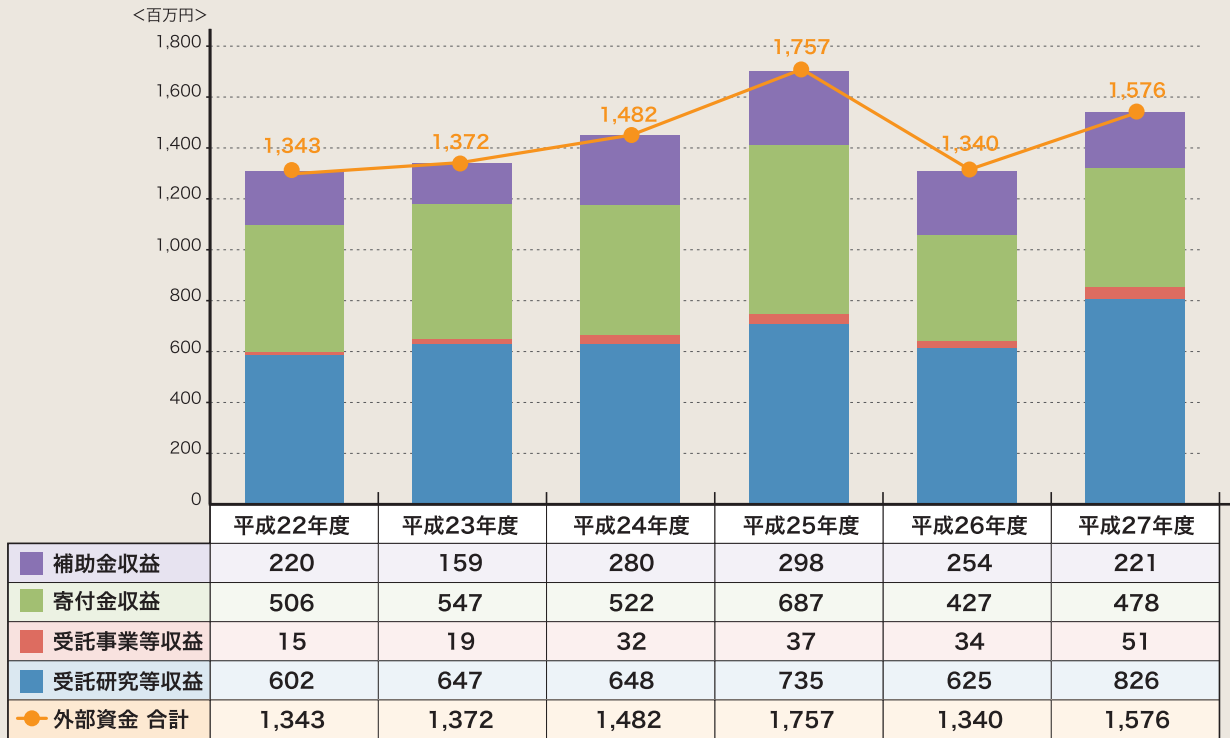


■出身都道府県別医学部入学者数



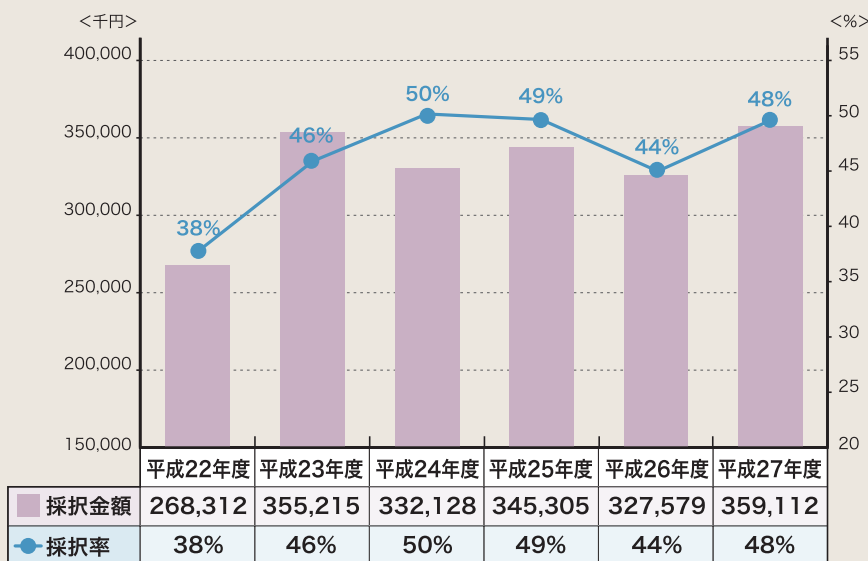
医学科、看護学科とも、県内高校からの入学者が堅調に推移しています。
 将来、この学生たちが、県内にて地域医療に貢献されることを期待しています。

■外部資金の獲得



※ 損益計算書より、補助金収益、寄付金収益、受託事業等収益、受託研究等収益をグラフ化したものです。年度により上下はありますが、増加傾向にあります。

■科学研究費の採択率と採択金額の推移

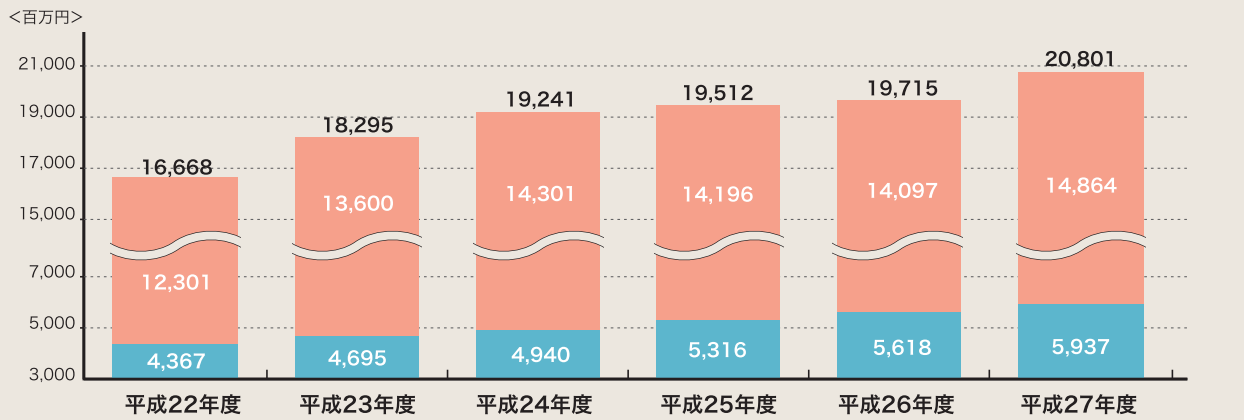


科学研究費の採択率、採択金額とも、平成22年度より増加の傾向にあります。



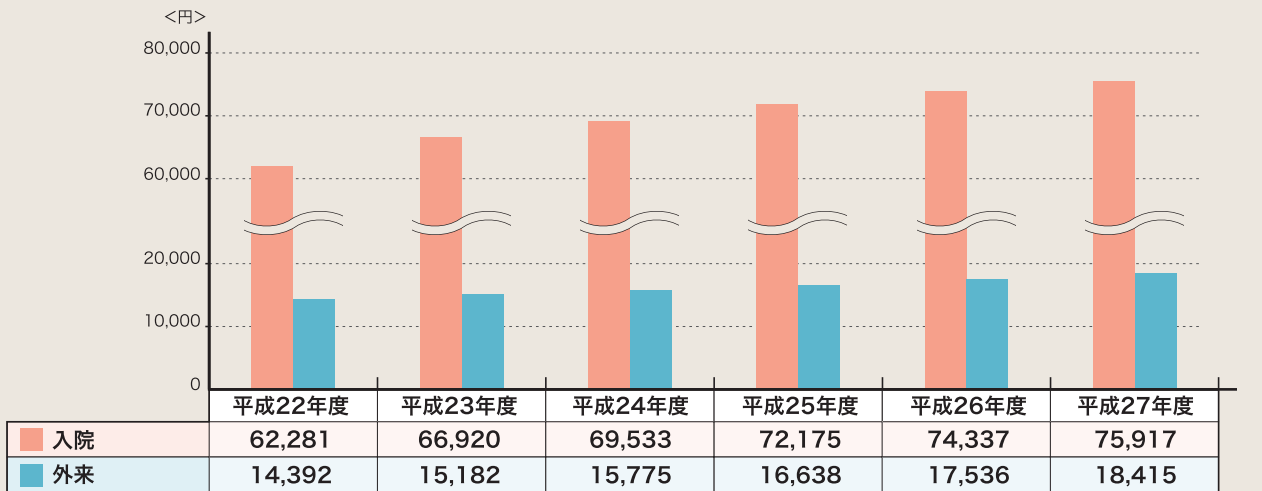
TOPICS 診療実績

① 診療報酬請求額

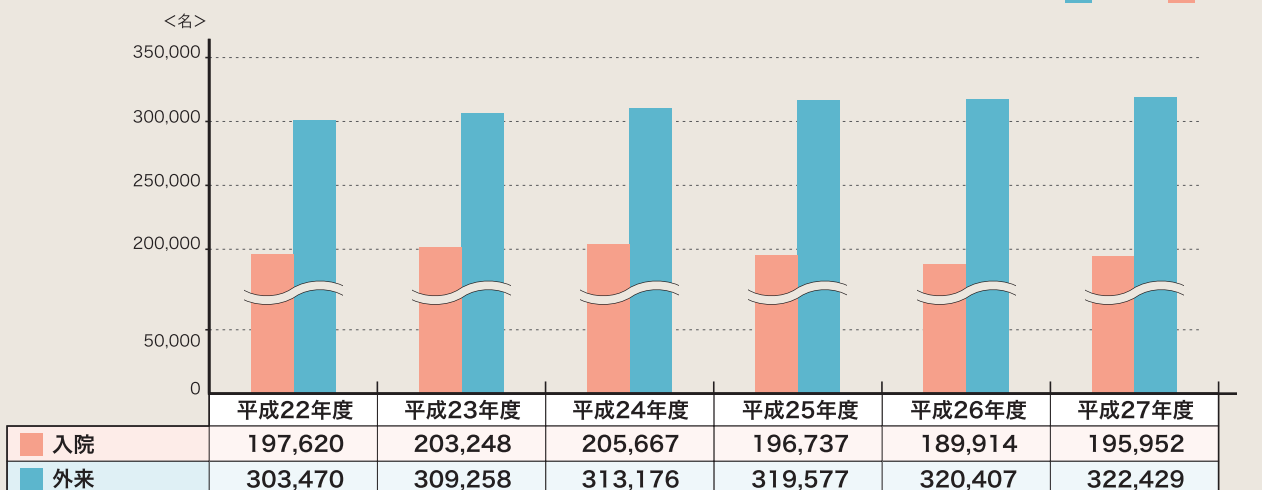


※診療単価及び患者数の増加等により、順調に増加しております。

② 診療単価



③ 患者数





手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入

平成25年3月、内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Si」を滋賀県内で初めて導入しました。ダ・ヴィンチを使った手術では、医師が3D画像を見ながらロボットを遠隔操作することにより、安全で正確な手術を行うことができます。

医師はモニターに映る高解像度の3D画像を見ながら、電気メスやカメラなどの機器を取り付けたアームを遠隔操作します。このアームは人間の手首よりも細かい動きが可能で、手ふれ防止の機能を備えており、また、カメラは自由にズームできることにより、医師を補助し、負担を軽減することができます。

患者さんにとっても、手術時の出血がこれまでの内視鏡下手術に比べて半分程度にまで抑えられ、傷口も小さいため回復が早く、負担が少なくなるというメリットがあります。

当院では、泌尿器科において、前立腺がんの全摘出手術を開始し、その後、消化器外科、呼吸器外科、女性診療科等でも行っており、平成26年度は58件、平成27年度は54件の手術を実施しました。

ハイブリッド手術室が完成

平成27年5月に『ハイブリッド手術室』が完成しました。ハイブリッド車はガソリンと電気の両方を使って走ることのできる車ですが、ハイブリッド手術室は、手術室でありながら、カテーテル室で使用されるような高性能の放射線透視装置を備えています。つまり、手術とカテーテル治療の良いところを組み合わせることが可能です。高画質の放射線画像を大画面で見ながら手術を施行することができますので、従来の手術室で用いていた放射線透視装置では対応困難であった症例にも対応できるようになっています。

このような新技術により、安全かつ低侵襲での手術が可能となり、また、最新の医療技術にも対応可能となりました。



ヘリポートの稼働

本学は県内唯一の特定機能病院として高度な医療を提供しており、平成26年6月の本ヘリポート稼働により、県内全域からのヘリコプターによる受入が可能となるとともに、搬送時間短縮による救命率の向上となりました。

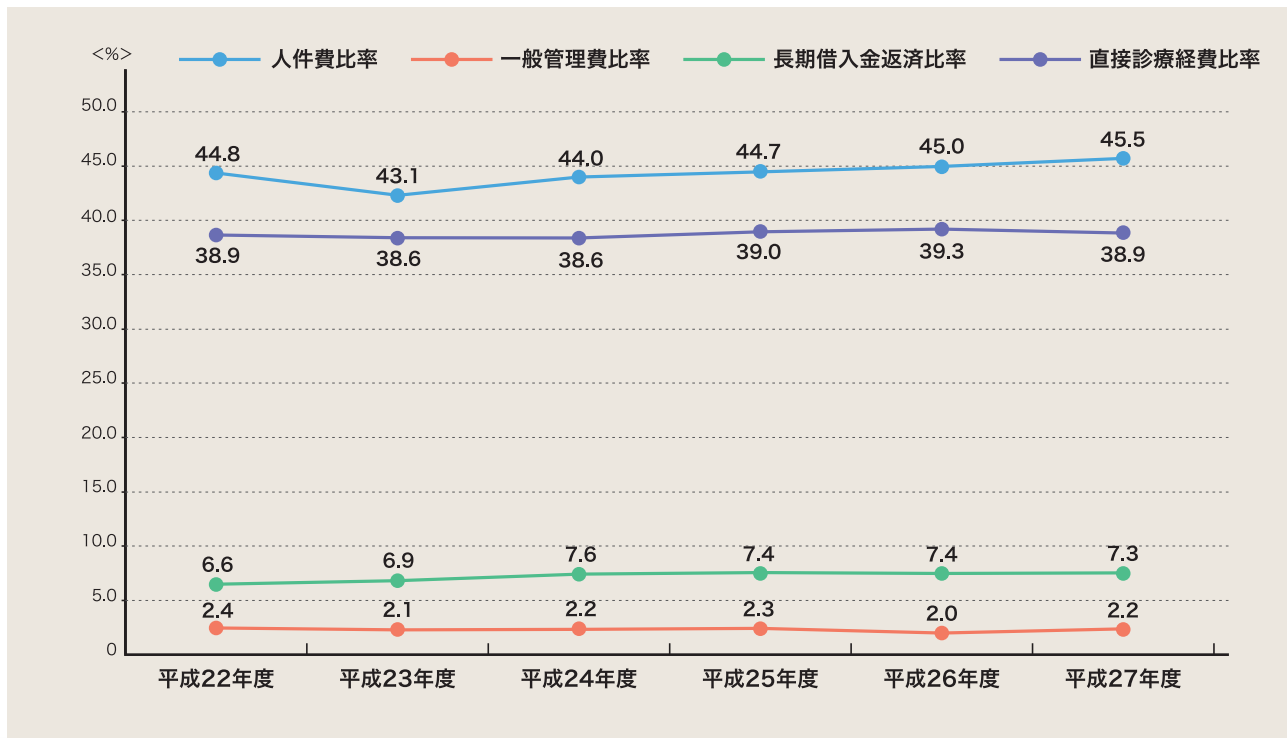
また、ドクターヘリや防災ヘリによる救急搬送受入や搬出を行っており、地域における広域救急医療体制の充実に貢献しています。

(平成27年度の患者搬送件数19件)

✓ドクターヘリ搬送による緊急救命手術の成功例

長浜市で発症した急性肺塞栓症の患者さんに緊急救命外科手術を施し救命に成功しました。この致命的な重傷事例に対応できたのは、初期病院での適切な診断・対応、ドクターヘリによる迅速な搬送、本学の受け入れ体制整備によるものです。

TOPICS 主な財務指標



① 人件費比率 (人件費÷業務費)

..... 業務費に対する人件費の割合

業務費は経常費用のうち、教育経費、研究経費、診療経費、教育研究支援経費、受託研究・事業経費、人件費を合計したものです。

この数値が高いほど、労働集約的な費用構造にあると判断されます。

医科系単科大学である本学は、附属病院を有しているため、全国の平均より低い値になっております。

② 一般管理費比率 (一般管理費÷経常費用)

..... 経常費用に対する一般管理費の割合

経常費用に対する一般管理費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が高いとされています。

③ 長期借入金返済比率 (借入金返済額÷病院収益)

..... 借入金の返済能力

附属病院収益に対する債務負担金および借入金の返済額の割合を示す指標であり、比率が低いほど健全性が高いとされています。

④ 直接診療経費比率 (直接診療経費(薬品、材料、食材)÷病院収益)

..... 直接診療経費の病院収益に対する割合

附属病院収益に対する直接診療経費(医薬品、診療材料、給食材料)の割合を示す指標であり、比率が低いほど収益性が高いとされています。(高度先進医療を担う特定機能病院では、高額な医薬品、診療材料を使用するため、一般の市中病院に比べ、高い傾向にあります。)

本学と地域経済の関わり

滋賀医科大学の立地による地域への経済効果

経済効果把握の視点

設立 昭和49年10月1日開学

所在地 滋賀県大津市瀬田月輪町

学部等 ・医学部医学科
・医学部看護学科
・大学院医学系研究科

学生数 計1,107人(学部918人、大学院189人)

役員数 計7人(常勤6人、非常勤1人)

教職員数 計2,130人(常勤1,263人、非常勤867人)

(平成25年5月1日現在)

経済効果把握の視点

教育・研究活動による効果
大学が教育や研究のために経費を投ずることより生まれる効果

教職員・学生の消費による効果
教職員の家族や学生が地域で消費活動を行うことにより生まれる効果

その他の活動による効果
講演会や公開講座、入学試験者など、年間を通じた来訪者が地域で消費活動を行うことにより生まれる効果

施設整備による効果
施設の新築や修繕のための投資により生まれる効果

滋賀県内への効果(平成23年度)

	<直接効果>		<生産誘発額>
教育・研究活動	53億円	1.38倍	73億円
教職員・学生の消費	52億円	1.31倍	68億円
その他の活動	59億円	1.34倍	79億円
施設整備	13億円	1.42倍	18億円
大学全体	177億円	1.35倍	239億円

- 県内の効果は直接効果177億円の1.35倍の239億円。
- 産業別では、「商業」に各活動から幅広く生産誘発効果をもたらされている。
- 教育・研究活動での医薬品等の消費により「化学製品」にも多額の効果がある。

効果の大きい産業(大学全体)

①産業	33億円	(13.9%)
②化学製品	33億円	(13.7%)
③不動産	31億円	(13.0%)
④飲食料品	18億円	(7.6%)
⑤農林水産業	17億円	(7.2%)

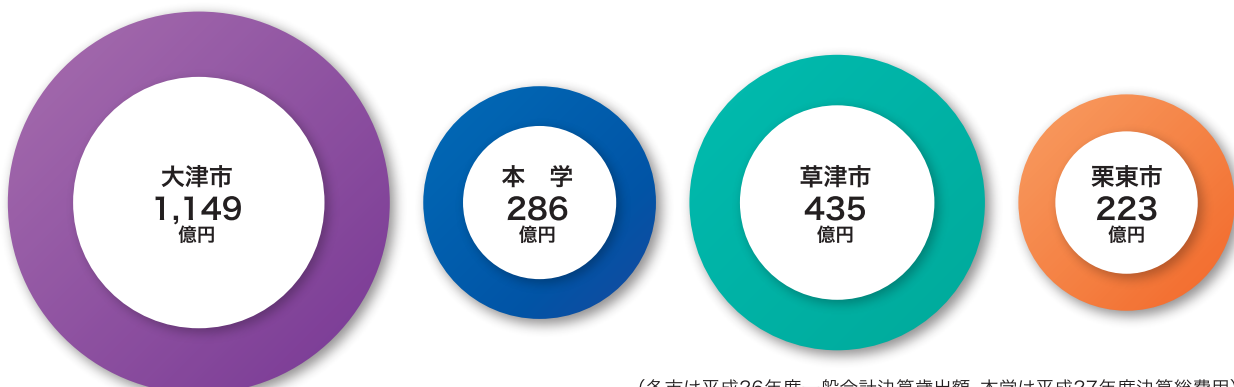
()内・・・全産業239億円に占める割合

平成23年度決算に基づき、株式会社しがぎん経済文化センターに委託し、「滋賀医科大学が地域に及ぼす経済効果分析調査報告書」を作成した。上記は報告書より抜粋したものである。

この調査は、本学の開学以来、地域特性を生かしつつ特色ある医学・看護学の教育、研究により、信頼される医療人や研究者の育成を通じ、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献してきたと考えられる。具体的な貢献としては、医療人や研究者の育成、養成、医療研究の推進やその成果の還元による社会貢献、地域貢献、また附属病院の運営を通じての地域医療の推進など、さまざまな分野にわたるとみられる。

そこで、今回の調査では、地域経済への効果という視点から、「産業関連分析による地域経済波及効果」の検証を行なったものである。

財政規模から見た地元市町村との比較



(各市は平成26年度一般会計決算歳出額、本学は平成27年度決算総費用)

新たな取り組み

【定期借地権活用による民間資本の導入】

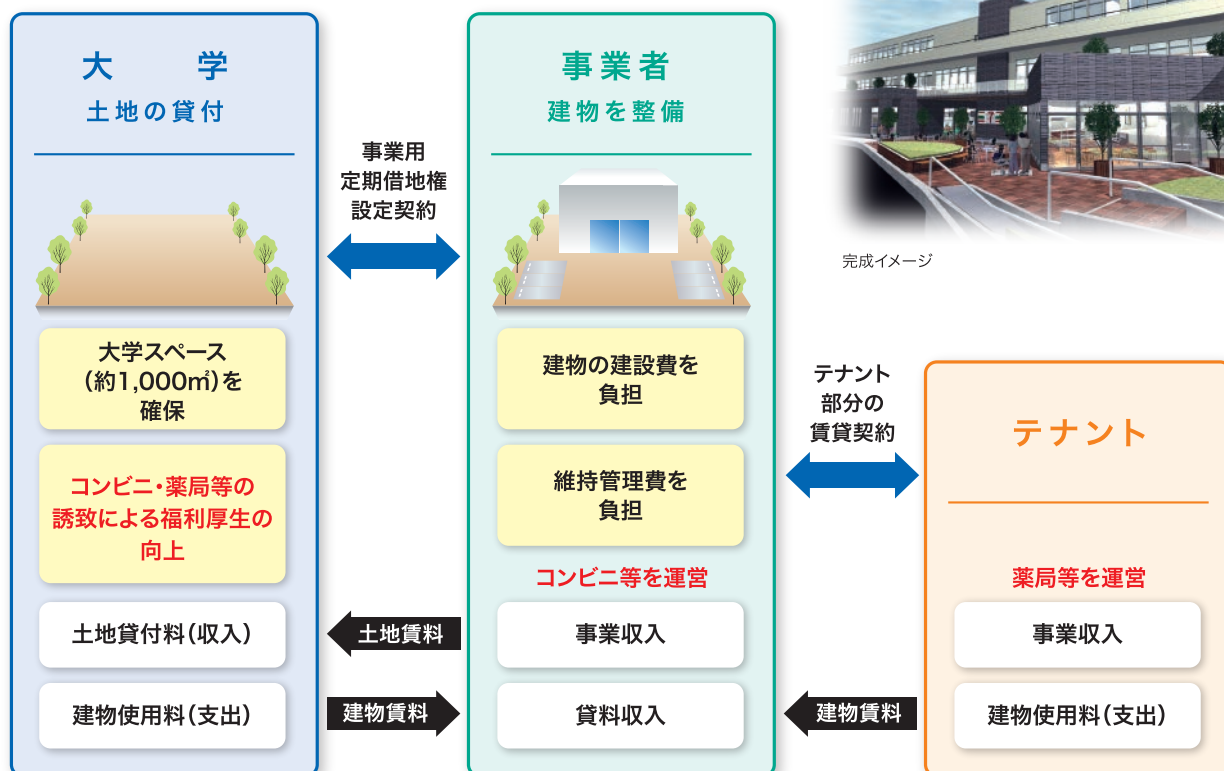
事業の目的

- ✓ 本学の周りには全く商業施設がありません。そのため、学内のコンビニエンスストアは混雑し、本学教職員、来学者、そして患者さんに不便を強いている現状があります。
- ✓ また、本学の近隣に薬局がないため、本学附属病院をご利用の患者さん方より、院外処方の薬を受け取ることができる薬局の要望等も長年強くありました。
- ✓ 今回、このニーズに対応すべく、民間資金を活用することにより、新築建物を整備し、利用者のニーズに応じたサービスを展開することを目標とした施設整備計画を策定いたしました。
- ✓ 薬局やコンビニエンスストア等の施設を事業者の負担により建物を新設し、その事業収入により事業者が維持管理・運営を実施することにより、長期的な観点で維持管理経費の削減を目指しています。

- 新たに大学が使用できるスペース(1,000㎡程度)を確保し、不足している共通スペースの確保を行う。
- 大学敷地内にコンビニ・薬局等を誘致し福利厚生を行う。

- 定期借地権を活用し、民間資本による新たな建物の建設および建設後の維持管理を行い、諸問題の解決を行う。

定期借地権を活用した整備スキーム



■第2期中期目標(前文)

第2期中期目標期間(平成22~27年度)では、一県一医大構想のもと地域の大きな期待により開学された滋賀医科大学は、地域に支えられ世界に挑戦する大学として、「患者の立場に立った人に優しい全人的医療教育」、「地域医療への理解」や「独自の倫理教育」、「臨床能力の高い人材の育成」等を実践する各種プログラムを活用した医学・看護学教育を推進することにより、高度専門医療人の育成と創造性に富んだ研究者を輩出することを使命とする。」ことを基本的な目標とし、教育、研究、診療、社会貢献、大学運営に力を入れて参りました。

「地域に支えられ世界に挑戦する大学」

■第3期中期目標に向けて(前文)

第3期中期目標期間(平成28~33年度)では、「滋賀医科大学は、地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、人々の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献するために、次の3Cを推進する。

Creation

優れた医療人の育成と新しい医学・看護学・医療の創造

Challenge

優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦

3C

Contribution

医学・看護学・医療を通じた社会貢献

これらを定め、運営機能強化、入試改革、教育、研究、診療、地域連携を進めて参ります。

Creation
Challenge
Contribution



発行

国立大学法人滋賀医科大学
会計課

住所 〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL 077-548-2028
URL <http://www.shiga-med.ac.jp/>

